

# 宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

## 令和5年第34週の発生動向

### トピックス

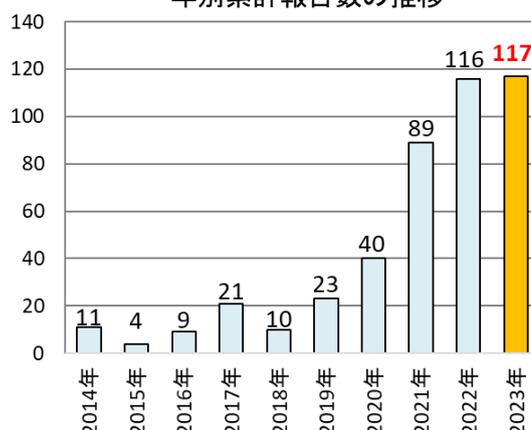
・**梅毒**(全数報告の感染症)の報告数が昨年と比べて大幅に増加している。診断週による累積報告数は117例と、1999年以降最も多くなった前年(116例)の報告数を超え、第34週時点で過去最多を更新した。

性別は男性が66例、女性が51例で、年齢群別では、20歳代から30歳代が全体の約6割を占めている。また、保健所別では宮崎市(77例)、都城(22例)保健所からの報告が多くなっている。

#### 【梅毒】2023年(第1週~第34週)年齢別報告数

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
15	39	29	21	11	2

【梅毒】診断週による  
年別累計報告数の推移



※2023年は第1週~第34週まで

### 全数報告の感染症 (34週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：報告なし。3類感染症：結核2例。4類感染症：報告なし。  
5類感染症：梅毒5例、播種性クリプトコックス症1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	男	無症状病原体保有者	なし
			90歳代	女	肺結核	咳
5類	梅毒	宮崎市	20歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			30歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			50歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
			50歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
	播種性クリプトコックス症	高鍋	10歳代	女	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結、硬性下疳
		宮崎市	60歳代	男	—	発熱、真菌血症

### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,607人(定点当たり33.4)で、前週比110%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患はRSウイルス感染症と水痘であった。

### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

#### 【新型コロナウイルス感染症】

報告数は987人(17.0)で、前週比99%とほぼ横ばいであった。延岡(28.7)、日向(19.3)、小林(18.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

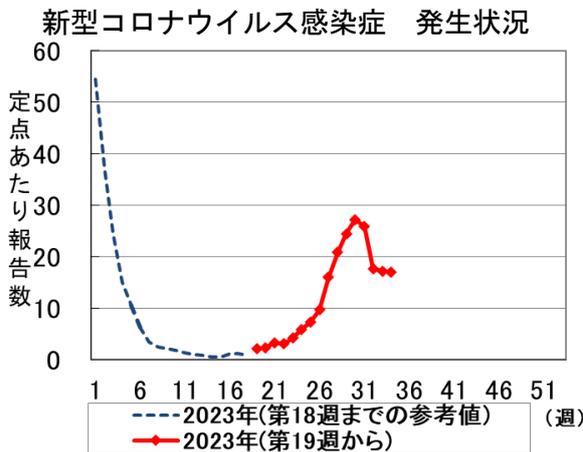
【インフルエンザ】

報告数は184人(3.2)で、前週比106%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\*(0.06)の約52.9倍であった。日南(9.6)、日向(5.2)、小林(3.5)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

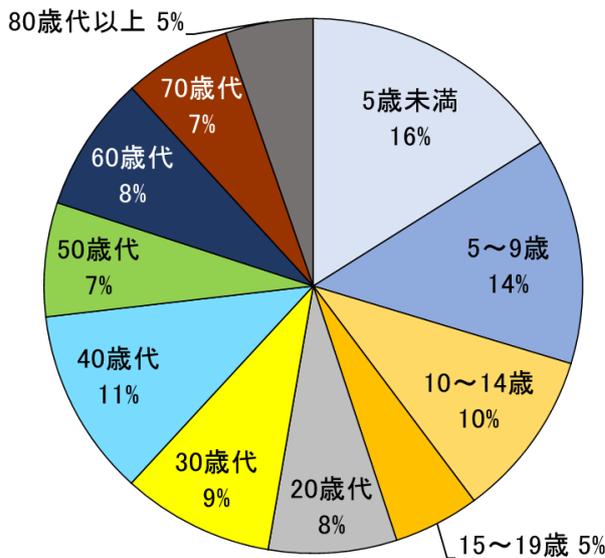
【手足口病】

報告数は98人(2.7)で、前週比134%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\*(1.3)の約2.0倍であった。延岡(5.0)、中央(5.0)、日向(4.8)保健所からの報告が多く、年齢群別は6ヵ月から3歳が全体の約8割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

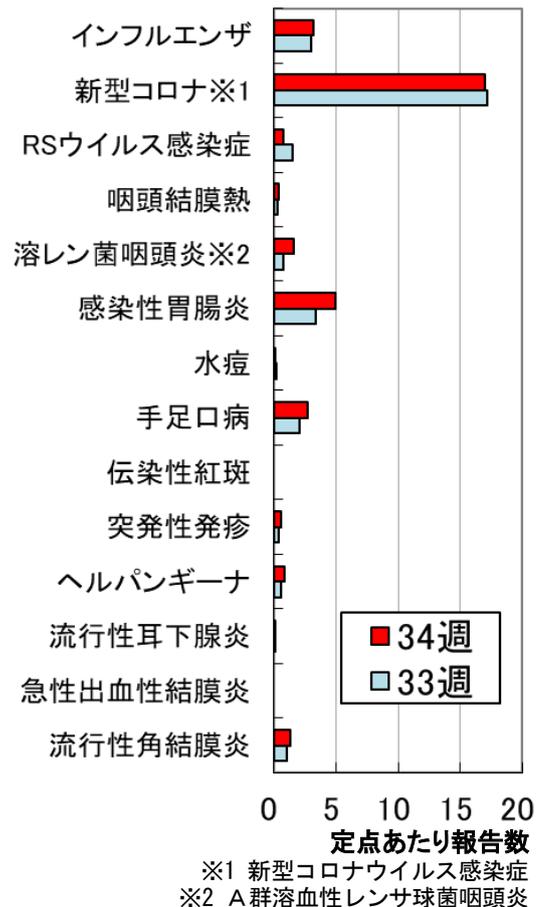


新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第34週)

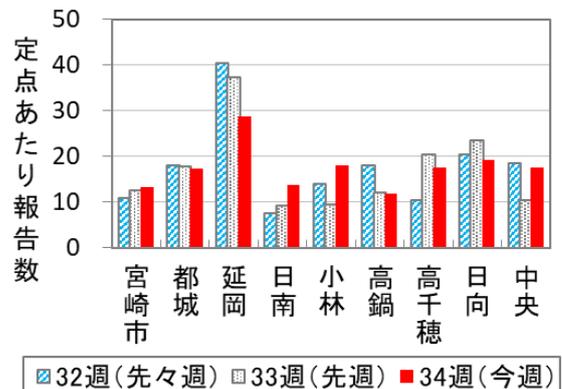


※新型コロナウイルス感染症の第1週~第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

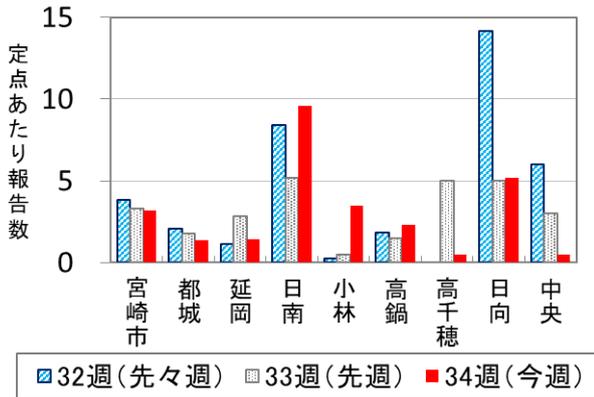
《前週との比較》



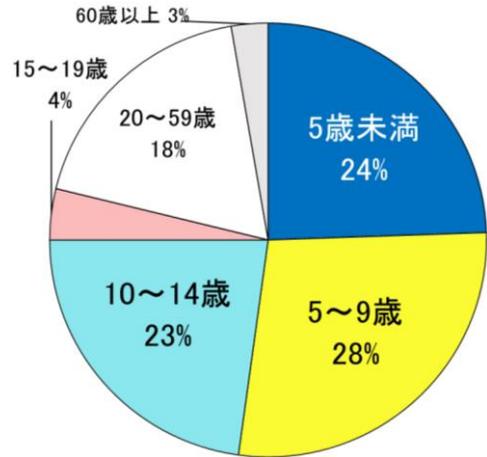
新型コロナウイルス感染症保健所別推移(3週分)



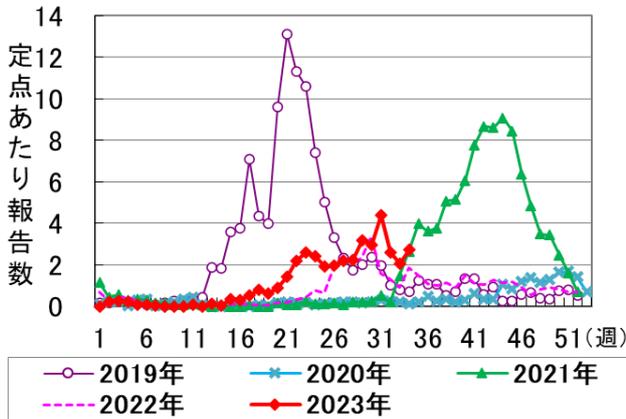
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



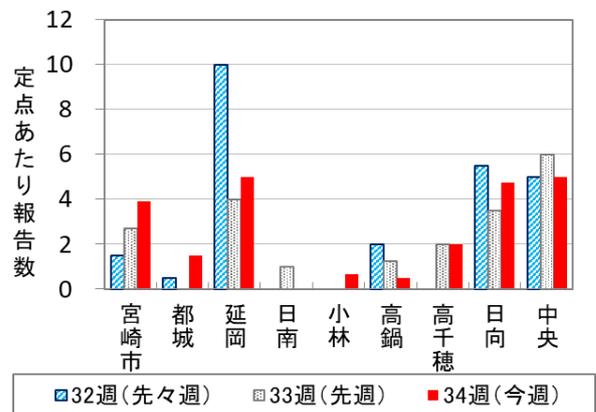
インフルエンザ年齢群別グラフ(第34週)



手足口病 発生状況



手足口病 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	手足口病(5.0)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	手足口病(5.0)

\*流行警報レベル開始基準値\*  
・手足口病(5)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年8月28日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	10歳代	男	2023.07.18	発熱(38.4℃)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.07.28
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	10歳代	女	2023.07.20	発熱(37.8℃)、胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐、腹痛)	便	2023.07.27
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	30歳代	女	2023.08.03	尿路生殖器症状(膀胱炎)	尿	2023.08.10
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0~4歳	男	2023.08.05	発熱(38.2℃)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.08.10
EPEC(OU:HUT)	10歳代	女	2023.08.04	発熱(37.5℃)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.08.22
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	10歳代	女	2023.08.10	発熱(40.0℃)、胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐、腹痛)	便	2023.08.17
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h,e,n,z15)	40歳代	女	2023.08.10	無症状	便	2023.08.17
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0~4歳	男	2023.08.16	発熱(39.0℃)、上気道炎(咽頭炎)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.08.24
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	5~9歳	女	2023.08.16	発熱(38.9℃)、胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.08.24
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	60歳代	女	2023.08.16	胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐、腹痛)	便	2023.08.23
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	5~9歳	男	2023.08.19	発熱(38.6℃)、胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.08.23

○患者10名からサルモネラ属菌が検出された。そのうち、患者4名から *Salmonella* Thompson が検出された。病原微生物検出情報（IASR）によると、*S.* Thompson は、2022年度は国内で最も多く検出されており、本県においても20株が当所で同定された。サルモネラ属菌によって起こるサルモネラ症の主な症状は腹痛、下痢、発熱であり、下痢は水様性から血便や粘血便を呈することもある。経過は一般に短く、主な症状は1~2日でおさまり、1週間ほどで回復するが、小児や高齢者では重症化しやすく、回復も遅れる傾向があるので注意が必要である。サルモネラ症の予防には、原因食品、特に食肉及び鶏卵の低温保存管理、調理前後の汚染防止等の衛生管理が大切である。また、低年齢層ではペット等の動物からの接触感染にも注意が必要である。

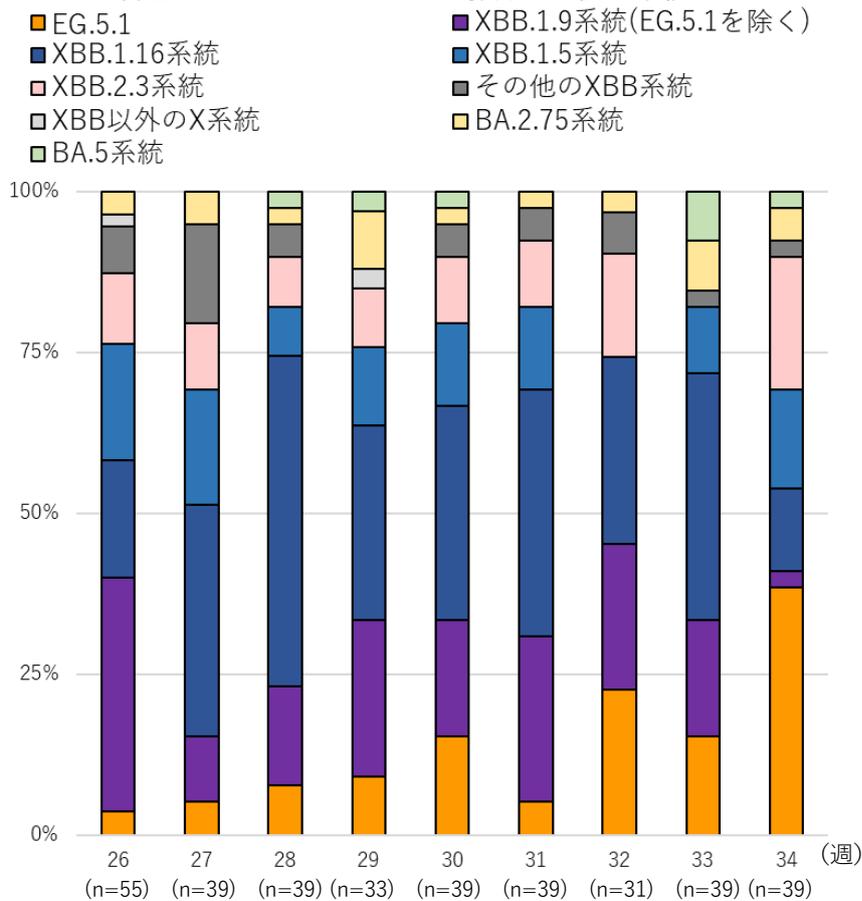
★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Parainfluenza virus 4	0~4歳	女	2023.06.20	気管支炎、38.5℃	咽頭ぬぐい液	2023.08.23
Coxsackievirus A9 Cytomegalovirus	0~4歳	女	2023.06.26	不明の発疹症、37.5℃、丘疹	咽頭ぬぐい液	2023.08.25
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.07.04	A型インフルエンザ、39℃、咳、頭痛、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.08.21
SARS-CoV-2	50歳代	男	2023.07.10	A型インフルエンザ、咽頭痛、咳、鼻水、倦怠感、関節痛	鼻咽頭ぬぐい液	2023.08.15
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.07.10	A型インフルエンザ、39.5℃	咽頭ぬぐい液	2023.08.21

○発疹（丘疹）の症状を呈する患者から、コクサッキーA9型およびサイトメガロウイルスが検出、分離された。コクサッキーウイルスA群は、コクサッキーA16型やA6型を主として、ヘルパンギーナや手足口病の原因ウイルスとして知られている。一方、サイトメガロウイルスは、通常、幼小児期に不顕性感染の形で感染し、生涯その宿主に潜伏感染する。

## □新型コロナウイルスゲノム解析結果情報（衛生環境研究所微生物部）

### 新型コロナウイルスゲノム解析週と検出系統



XBB 系統は第 34 週で約 92%を占め、そのうち EG. 5. 1 (XBB. 1. 9. 2 系統) が約 38%を占めた。

「X」で始まる名前は遺伝子組換えで発生した系統に付けられる。

XBB は BJ. 1 (BA. 2. 10. 1 系統) / BM. 1. 1. 1 (BA. 2. 75. 3 系統) の組換え株である。

ゲノム解析は概ね前週の検体を用いて実施している。なお、解析検体数が多くない場合は割合の変動が大きくなる。

衛生環境研究所においては、県内医療機関の協力のもと、新型コロナウイルスの PCR 陽性となった検体を毎週収集し、ゲノム解析を実施している。

## 🇯🇵 全国 2023 年第 33 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	230 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	131 例	腸チフス	1 例		
	4類感染症	E型肝炎	4 例	エムボックス	1 例	回帰熱
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	3 例	つつが虫病	1 例	デング熱	5 例
	日本紅斑熱	13 例	マラリア	1 例	レジオネラ症	34 例
	レプトスピラ症	2 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	13 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	39 例	急性弛緩性麻痺	2 例
	急性脳炎	4 例	クリプトスポリジウム症	1 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17 例	後天性免疫不全症候群	9 例	ジアルジア症	1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	9 例	侵襲性肺炎球菌感染症	25 例	水痘(入院例)	7 例
	梅毒	168 例	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	2 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	14 例		

## □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 108%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、咽頭結膜熱及び水痘で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症、手足口病及びヘルパンギーナであった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 86,756 人(17.8)で前週比 126%と増加した。岐阜県(31.0)、岩手県(30.4)、秋田県(28.5)からの報告が多く、年齢群別では10歳未満が全体の約2割を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 1,952 人(0.63)で前週比 113%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.23)の約2.8倍であった。大阪府(2.2)、福岡県(1.9)、兵庫県(1.7)からの報告が多く、年齢群別では1歳から5歳が全体の約8割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2023年 第34週(08月21日～08月27日)

疾病名		第33週	第34週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	174	184	51	14	10	48	14	14	1	31	1
	定点当り	3.00	3.17	3.19	1.40	1.43	9.60	3.50	2.33	0.50	5.17	0.50
新型コロナウイルス感染症	報告数	999	987	214	174	201	69	72	71	35	116	35
	定点当り	17.22	17.02	13.38	17.40	28.71	13.80	18.00	11.83	17.50	19.33	17.50
RSウイルス感染症	報告数	53	27	10	5	1	2	4	2		3	
	定点当り	1.47	0.75	1.00	0.83	0.25	0.67	1.33	0.50	0.00	0.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	11	13	5	2	1		2			3	
	定点当り	0.31	0.36	0.50	0.33	0.25	0.00	0.67	0.00	0.00	0.75	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	28	59	16	22	4	4	1	2		10	
	定点当り	0.78	1.64	1.60	3.67	1.00	1.33	0.33	0.50	0.00	2.50	0.00
感染性胃腸炎	報告数	120	180	65	25	4	16	32	8	2	19	9
	定点当り	3.33	5.00	6.50	4.17	1.00	5.33	10.67	2.00	2.00	4.75	9.00
水痘	報告数	7	1					1				
	定点当り	0.19	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	73	98	39	9	20		2	2	2	19	5
	定点当り	2.03	2.72	3.90	1.50	5.00	0.00	0.67	0.50	2.00	4.75	5.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	15	19	6	6	3	3	1				
	定点当り	0.42	0.53	0.60	1.00	0.75	1.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	20	29	9	3	6		1	1	1	8	
	定点当り	0.56	0.81	0.90	0.50	1.50	0.00	0.33	0.25	1.00	2.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	2			1					1	
	定点当り	0.03	0.06	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	6	8	6	2							
	定点当り	1.00	1.33	2.00	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～34週保健所受理分)

2類感染症	結核	74例(2)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9例	腸チフス	1例
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	12例	つつが虫病	10例
	レジオネラ症	4例		日本紅斑熱
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	6例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	9例	水痘(入院例)	2例
	播種性クリプトコックス症	4例(1)	破傷風	2例
			カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例
			クロイツフェルト・ヤコブ病	3例
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例
			梅毒	121例(5)
			百日咳	4例

( )内は今週届出分、再掲